

# 目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第98号 2023年3月

発行人：川崎 秀一 編集長：細谷 清 事務局長：吉野 博明  
事務局：〒153-0053 目黒区五本木2-22-6 Tel 03-3713-1684  
ホームページURL：http:// me96tomon-waseda.la.coccan.jp/

## 2023年新年会を開催

2023年1月15日(日)に、中目黒駅そばの中目黒GTホールで来賓として青木英二目黒区長、三木省吾早稲田大学校友会事務局長兼総長室副室長(社会連携担当)・校友課長をお迎えし、特別ゲストとして河津延樹(世田谷稲門会)、岩瀬 優(早稲田大学落語研究会)、小澤麻衣(同)の各氏に参加いただき



総合司会：田添麻友幹事



川崎秀一会長

て、田添麻友幹事の司会の下で15時より新年会第一部を開催しました。出席者は51名でした。

最初に川崎秀一会長が挨拶(別掲)をして、「明るく楽しく元気よく」をモットーに会を運営して皆さんが活躍されることを祈念する挨拶をされました。

次に青木英二・目黒区長より新年のご挨拶を頂きました。ここで、川崎秀一会長より目黒区サクラ基金に対する寄付金が青木目黒区長に手渡されました。



青木英二目黒区長



サクラ基金寄付贈呈

続いて三木校友会事務局長にご挨拶を頂きました。「WASEDA サポーターズ倶楽部」は2022年4月より「早稲田大学応援基金」に生まれ変わった事、また早稲田スポーツの中でも人気を博してきた野球、駅伝、ラグビーは、世代に関わらず多くの方から注目され、数々のご支援を受けてきたが、その



三木省吾校友会事務局長

輝かしい伝統を持つ三部門を強化する為に、「早稲田スポーツ強化募金」を昨年12月に開設した事を披露して、校友の理解と支援を求めご挨拶をされました。

### <川崎会長挨拶>

皆様あけましておめでとうございます。

それぞれにゆっくりとお正月を過ごされたことと思います。

昨年は思いもよらないことが次から次へと起こる年でしたが、きっと今年は少し落ち着きを取り戻す年になると心から期待しています。

コロナ禍は一時からすると落ち着きを見せてきましたがまだまだ油断は出来ません。

また、昨年来、物価上昇が止まりません。小資源国である日本としては、大幅な円安は直接家計に響いてきます。12年前の兎年は2011年でしたが、当時は1ドル75円32銭と言う円高に苦しめられていました。当時は円安を望んでおりましたが現在のような極端な円安も困ったものであります。

兎年、良い方向に飛び跳ねてほしいものであります。世相は色々ありますが、会員各位が健やかに過ごされることを祈念しております。

お陰様で目黒稲門会も昨年は日常活動を取り戻して各部会ともに活発に活動して頂きました。また、新たな会員も加入して頂きリニューアルされたところもあると思います。

今年は更に部会活動が活発化し皆様により楽しんで頂ける目黒稲門会であることを期待しております。「明るく楽しく元気よく」のモットーのもと皆様がお元気で活躍されますことを祈念して簡単ではございますが、新年のご挨拶とさせていただきます。

この後は今年初めての試みとして校友による音楽と落語で新しい年を寿ぐ場となりました。

河津延樹氏の司会で澁谷瑠璃幹事(2010年二文)がエレキギターでの弾き語りを、山内 宏幹事(1981年教育)のアコースティックギターとピアノによるクラシック曲を、松方正彦会員(1983年理工)のジャズメドレーが披露されました。



司会：河津延樹氏



澁谷瑠璃幹事



山内 宏幹事



松方正彦会員

次に場をガラリと変えて高座での早稲田大学落語研究会による落語が二題ありました。七志野権兵衛(岩瀬 優・北里大学3年生)が『ざるや』を、曖昧亭もこ(小澤麻衣・文学部3年生)が『加賀の千代』を演じ、初笑いに沸きました。



七志野権兵衛



曖昧亭もこ

皆さんが歌と演奏と噺による軽快な音楽と笑いに包まれた舞台を披露されまして、新春に相応しい雰囲気になりました。

そして河津延樹氏のリードで早稲田の栄光を斉唱し、尾崎 充監査役による中締めで第一部を時間通りに閉じて、舞台を第二部の懇親会に移しました。



「早稲田の栄光」斉唱



一部中締め 尾崎充監査役



集合写真  
(一部会場)

懇親会は近くの割烹「おおたる」の二階を借り切って狩野俊夫副幹事長の司会で菊池崇之会員による乾杯の音頭で定刻通りに始めました。



乾杯：菊池崇之会員

開始早々から場は一気にお酒の入った談笑の場となり、最初に座った席から人が行きかいビール、日本酒、焼酎を酌み交わし、飲み交わしました。三年振りの懇親会は、文字通り親交の場となりました。



話は尽きませんでした。松田哲也会員のエールと指揮による校歌を元気に斉唱し、最後には高橋圭吾幹事の力強い一本締め中締めで、散会となりました。



校歌斉唱指導：松田哲也会員



校歌斉唱



二部中締め  
高橋圭吾幹事

昨年はコロナの感染対策として飲食なしでお弁当を持ち帰った会でしたが、今年は久しぶりにフルバージョンの新年の喜びを祝う会となりました。会員皆様と共に分かち合えて楽しい会となりました。

(細谷 清記)

## 各部会からの案内・報告

### ウォーキング部会

第152回「早稲田の文化施設をめぐる」

2022年12月20日(火) 参加12名

大隈講堂→国際文学館(村上春樹ライブラリー)→坪内逍遙記念演劇博物館→會津八一記念博物館→歴史館→スポーツミュージアム

師走の天気の良い日であった。会員12名が13時前に大隈講堂前に集合、渡邊義浩早稲田大学常任理事(文化推進担当)の歓迎を受け、ツアーを開始した。

まず大隈講堂の内部を、文化企画課・水村正孝氏による丁寧な説明と共に案内して頂いた。学生時代はもとより今日に至るまで講壇に登る機会に恵まなかった一行は、壇上から見渡す客席の光景に感激。見上げると天上のドーム型の明り取りも新鮮だった。壇上からの音が良く響くこと。当時の音響技術に感動した。

次はこれまた入る事の叶わなかった貴賓室。大隈重信侯が、米ロバートケネディ司法長官が、その他登壇されたお歴々がここに控えていたのかと、感慨



大隈講堂：銅像前にて

ひとしおだった。

そして、大隈庭園を望むバルコニーで記念写真をパチリ。かつてキャンパスにあったと言わ

れる大礼服を着用した大隈重信侯の銅像を囲んでの撮影だった。



村上春樹ライブラリー

次は国際文学館、通称村上春樹ライブラリーへ。ここで館長の西尾昌樹氏に出迎えて頂き、静かなライブラリーの中を見学

した。村上春樹氏の人柄をしのばせるエピソードや、改築に際しての設計者・隈研吾氏との出会い、所縁のカフェから引越した家具類など、普通に訪れては気が付かないようなお話を沢山聞かせて頂いた。

高齢者の多い集まりなので、国際文学館を終わると、カフェで一休みと言って抜ける人も出てくる。休まない人達は演劇博物館、會津八一博物館と回った後、歴史館前でカフェ組と再合流。ところが、歴史館入り口内にもカフェを発見。館内見学もそこそ

こに再びカフェに座る人が続出した。

歴史館を見学してから暫し休憩の後、戸山キャンパス・早稲田アリーナ3階のスポーツミュージアム



へ向かった。早稲田スポーツクロノジーや展示されているユニフォーム・用具などを見て、最後はフォトコーナーで記念撮影し、ツアーを締め括った。

このツアーの企画当初から相談に乗って頂き、当日も大隈講堂を詳しく案内いただいた水村正孝氏、村上春樹ライブラリーで素晴らしい案内とお話を聞かせて下さった西尾昌樹氏に心から感謝申し上げたい。

第153回「雑司ヶ谷七福神めぐり」

2023年1月6日(金) 参加13名

護国寺・大隈重信侯墓参→吉祥天→雑司ヶ谷旧宣教師館→雑司ヶ谷墓地→毘沙門天→恵比寿神→雑司ヶ谷ケヤキ並木→大黒天・鬼子母神堂→弁財天→布袋尊→華の福祿壽



護国寺本堂前で

新春恒例の七福神、今年は雑司ヶ谷。吉祥天に近い護国寺駅に集合し、没後101周年を四日後に控えた大隈侯の墓前に。残

念ながら門が閉まってお墓までは行けなかった。遠くから参拝。七福神は吉祥天(清土鬼子母神堂)から。雑司ヶ谷鬼子母神像が発見された所縁のお堂。次に雑司ヶ谷の谷を上がって、豊島区最古の木造洋館である雑司ヶ谷旧宣教師館や、雑司ヶ谷墓地・夏目漱石の墓を回り、清立院・毘沙門天へ。お堂の前には甘酒(有料)を振舞うテントがある。起伏の多い雑司ヶ谷の谷を抜けて来た一行は、早速頂いてほっこり温もった。都電荒川線の踏切を渡ると、大鳥神社・恵比寿天では茅の輪の潜り方を学びながら参拝。そこから裏へ抜け、鬼子母神参道の大きなケヤキ並木を経由して、大イチョウや大黒天、鬼子母神堂のある法明寺の境内にでる。鬼子母神堂は国の重要文化財に指定される立派な寺院で、参拝客が絶えない。法明寺の本堂へ向かう途中、観音院の中にある弁財天を回り、法明寺の横を抜けて暫く行くと石材問屋のビルにある布袋尊、最後は仙行寺ビルの中にある華の福祿壽で七福神めぐりは終了。新春らしい穏やかな好天に恵まれた歩行だった。

ウォーキング部会長 吉野博明

## 俳句部会

日時 2023年1月9日(月)郵送句会  
(順不同)

川井素山	松過ぎの牡蠣つむ舟の傾ぎをり
保井寶正	辞世の句ひもとく日和寒椿
佐久間喬	どんど焼き炎の先に昼の月
丸山酔宵子	山茶花や疎水に遊ぶ夫婦鴨
吉田啓悟	今気温二度三分なり初詣
青木英林	悴める手足伸ばして初ショット
山本草風	松過ぎて指の爪切る妻娘
佐久間たか子	実千両墨絵に赤を落しけり
渡辺鯨波	行き場なき点字ブロック冬ざるる
後藤克彦	無住寺の賽銭箱に満つ落ち葉
原 晶如	松過ぎの空のほりゆく観覧車
永井正孝	初詣なかなか神に近づけず
青葉ひかる	決断は桜だよりを待つその日

### 中原主宰の選んだ秀句と評

松過ぎの牡蠣つむ舟の傾ぎをり  
少々積み過ぎたか傾で-これはテンプレクする恐れあり 漁師だったら平均になるようにするとは思いますが  
辞世の句ひもとく日和寒椿  
他人さまがどんな辞世の句を作っているか参考にしたい 寒椿は落椿だとイコール死を連想するが-  
これはまだ隠棲しているイメージ  
どんど焼き炎の先に昼の月  
誘導していく目線(視野)の先に昼の月が残っていた  
というもの  
行き場なき点字ブロック冬ざるる  
その先がコツ然と消えて-困惑してしまう 盲人でなくても  
実千両墨絵に赤を落しけり  
白黒の世界(水墨画)の中に一点朱を入れるとよく引き立つという 画竜点睛とはこのこと  
俳句部会長 佐久間 喬

## 囲碁部会

コロナ禍が続いている為、2021年秋より「呼びかけの碁」というネット碁を使い、対面で会うことなしに部会員同士対局しています。

2022下期第一ラウンドのリーグ戦結果は、1位小倉氏、2位保井氏、3位大久保氏でした。

皆様のご参加を歓迎致します。市川までご連絡下さい。

囲碁部会長 市川 亘

## スポーツ観戦部会

12月4日(日)、国立競技場で行われた伝統の関東大学ラグビー対校戦早稲田大学対明治大学を8名の会員と応援観戦した。

試合開始早々から失点し、3連続トライを許す苦しい立ち上がりであったが、2連続トライで反撃し前半を14対21で終えた。後半早々、ロングパスをインターセプトされ、点差を14に広げられる。その後、反撃を続け再び7点差にまで追いつけたが終盤にトライを奪われ試合はノーサイド。21対35で敗北、秋季対抗戦3位となった。試合後の渋谷での



反省会で、1975年次稲門会の2名が加わり、今年の反省と来年の奮起を願い、美味しいお酒を酌み交わした。

スポーツ観戦部会長 狩野俊夫

## いち月会

コロナ禍の為、2020年2月より中断していた定例部会を2022年10月3日より再開した。

再開前は、よん月会の名称で毎月第4月曜日に「やるき茶屋」自由が丘店で開催してきたが翌月第1月曜日の役員会後の懇親会と続く為、また、会場が閉店となる為、役員会後の懇親会をいち月会として、梅山飯店(中華料理)にて開催することになった。10月3日(12名参加)、11月7日(14名参加)、12月5日(7名参加)、2023年1月10日は、役員会を鷹番住区Cで開催した為、すみれ学芸大学店で開催した。(11名参加)

いち月会部会長代行 吉野博明  
(部会長募集中)

## ボランティア部会

12月9日(金)9時半、会員8名が軍手とレジ袋を持って目黒川にかかる田道ふれあい橋の上に集合し、本年2回目の目黒川沿道清掃を行った。ペットボ



トルや空き缶などのゴミを主催者が用意した大型炭バサミで拾い集めた。次回は3月の予定。

ボランティア部会長 小杉 哲

## 旅行部会

～竹生島クルーズと彦根城・琵琶湖巡り2日間の旅～

当会旅行部会はコロナ禍で「青森旅行」から3年ぶり、11月26～27日の1泊2日の実施になった。

朝7時25分新幹線品川駅改札口集合から物語は始まった。新幹線ホームの入場券購入でひと悶着。遅刻常連のメンバーも早く到着。そこへ1名の参加者がまだ目黒駅辺りとの事で大騒ぎになる。7時33分ひかりが定刻に発車。そこに何と、遅れている某氏があせびっしょりの顔を出す。参加予定全員がそろって、かの国会議員が腕力で作らせた岐阜羽鳥駅へ到着。バスで紅葉盛りの湖東三山へ。



西明寺・紅葉



西明寺・不断桜



金剛輪寺・本殿



千林地蔵

まずは西明寺へ、真っ赤な紅葉の綺麗さに歓声を上げ、可憐な不断桜も咲いていた。ところが案内に偽りなく階段の多さに悲鳴が上がり、本堂まで登れない参加者もいた。本堂内陣におわす国宝の仏像に参拝。どうにか坂を下りバスに乗り金剛輪寺へ。

金剛輪寺の三重塔と本堂を廻り血染めの紅葉と名前のある真っ赤な紅葉を眺め、鐘楼で願いを込めて釣鐘を打ち、駐車場迄風車を持った千林地蔵に見送られながらよたよた戻る。

部会長の㊦エピソード1：某女子が金剛輪寺門前のお店で松茸販売を見つけました。バスドライバーからこの辺りは松茸名産地と聞いていたのですっかりその気になって購入し

ようとしたが、念のため産地を聞いたところ「トルコ産」との答えに、ビックリ！

バスは琵琶湖畔を今夜の宿泊地、長浜太閤温泉へ。夜はホテルでバイキングを味わい、温泉と太閤ゆか

りの茶褐色の露天風呂に浸かり、今日の疲れを癒し静かに就寝。

翌朝は風が少しあったが晴天。長浜港から30分程の琵琶湖クルーズを楽しみ、神の住む島と言われて



都久夫須神社



唐門前にて



彦根城

いる神秘的竹生島へ渡る。この島は電気が通じていないので関係者すべて島外から通いと事。地元ボランティアガイドの案内で国宝の都久夫須神社と豊臣秀吉が建てた現存唯一の大坂城遺構とされている、国宝の唐門と、宝厳寺弁才天堂を急な階段の上り下りをして参拝。約1時間で港に戻り、船で長浜港へ。

ホテルまで戻りバスで彦根へ向かう。途中、昼食にうどんのたっぷり入った、少々甘い汁の近江牛のすき焼きを食べる。食後、バスは国宝の天守閣が待つ彦根城

へ、各自、自由散策となり、名勝・玄宮楽々園、園内の魚躍沼に掛かる竜臥橋を渡り、西の丸天守閣へ。ここでまた急な階段の登り下り、天守閣からはるか琵琶湖の竹生島を眺め、バスで新幹線米原駅へ。

新幹線こだまに乗り、品川へ。各駅停車のこだまは、停車するたびに後続の「のぞみ」と「ひかり」に抜かれること20本、新幹線といえどもこの差は大きい。約3時間を要しそれでも在来線より早いと言いつけて品川駅に全員無事到着、解散。

部会長の㊦エピソード2：某氏が帰りの新幹線内で、夕食代わりにカレーパンを食していたところ、入れ歯が欠けて半分はテーブルに、半分は腰掛け下に落下。慌てて探すも行方不明に。隣の某女子が座席の下にどうにか発見。その後、さすが多弁の某氏もマスク着用のまま、品川着まで静かになり、そのまま無言で帰宅。後日談に入れ歯にウン拾万円の出費との事でした。

今回の旅では、急な斜面の階段が多く、これに挑戦した、老いた皆さんの体力に敬意を表します。企画をされた井村部会長に心より感謝を申し上げます。

(吉田 博行 記)

## 110年の歴史—広告研究会



後藤 克彦（昭和42年 文）  
目黒稲門会には今でも3人の広告研究会（広研）出身者がいる。卒業年次順では後藤克彦（1967）、安藤 孝（1971）、岩崎正夫（1972）で、目黒稲門会では3人とも広研の経験を生かし、幹事（三役）として活躍？役に立っていたとお互いに自負している。

広研は早稲田大学のサークルの中でも歴史と品格？があり、活動も楽しい存在であった。私自身は今でも同期の仲間とラインでの情報交換。コロナ禍前には毎年の旅行、食事会等で友情いっぱいを送ることができている。

広研の歴史について少し説明させて頂くと、2013年には「早稲田大学広告研究会100周年記念誌」を刊行。今年で110周年です。記念パーティーでは多くの先輩や同期、後輩たちにも会うことができました。印象深く記憶に残っているのは安藤 孝さん達が壇



広告研究会100周年記念撮影（大隈講堂前）



私の時代に発刊された機関紙

上で校歌を歌っていたことでした。

広研の起りりは、100周年記念誌によると1913年10月17日、早稲田大学創立30周年記念式典が

挙行された際、式典において大隈重信総長は「進取の精神」や「学の独立」を謳う早稲田大学教旨を宣言。この教旨に則り、各種スポーツ大会のほか、早稲田大学沿革・工芸・明治政治史・江戸美術などについての展覧会が催されました。その一つとして行われたのが商学科主催の広告展覧会です。伊藤重治教授の講義を受けていた学生の提案で開催された商

品・日用品広告や世界各国の新聞雑誌広告、化粧品・呉服店・劇場などのポスター、カタログ、広告文字、江戸時代の広告が展示されました。この催しは、国内初めての広告関係の展示でもあり、注目を集め、日本広告界に大きな刺激を与えました。

この展示会の成功をきっかけに、その準備にあたった学生が集い、専門的な広告研究機関として正式に組織することが決まり、また、翌年1914年1月17日大隈講堂にて広告研究会が誕生しました。

広研には、広告管理・マスメディア・コピー・広告写真・広告美術・市場調査・広告心理等の部会に分かれてのグループ勉強会がありました。3年生がリーダーになり、夏休み、冬休みには合宿等で民宿に集まり勉強と遊びと楽しい会だったという記憶があります。

1965年に私達は早稲田祭の発表テーマを「現代広告の一考察」（その年の研究幹事を担当）として日本経済新聞社からの寄附で大掛かりの調査をしたことを思い出しました。毎年、テーマを決めて発表をしながら広告を学ぶサークルです。実践活動として森永製菓協賛でのキャンプストア（千葉県勝山海岸での海の家）を運営していました。

私の時代の広研出身者は広告界へ行く学生は少なく、どちらかと言えば変わり者が広告制作会社へ。

私自身もコピーライターを希望して家電メーカーの宣伝研究所に入社。面接官は有名な小説家？の部長で、何となく気後れして恥（質問の聞き違い等）をかきました。二次試験の所長面接ではラフな服装で行き、ジロっと睨まれた思い出があります。

入社四年後、部長に「君は早稲田大学の広告研究会にいたのだから社長への広告表現説得策を考えるように」と命令がありました。広研時代に学んだ広告表現理解度と消費者行動調査を企画実施。数字による説得は効果があり、社長にも納得していただいた。その時には広研出身で良かったと思いました。しかし、コピーライターとしての才能への期待度は低く、翌年には調査担当として新設された調査室へ移動。当時の広研幹事長と五人の学生にも協力をいただきました。広研会長の商学部小林太三郎教授（私の入社への推薦状を書いていただいた先生）をお願いして卒業予定の優秀な学生1人を正社員として入社させることができました。

余談ですが広研時代は自由で生意気な態度の毎日。仲間は私がお金が無くともランチをよくご馳走してくれ何とか卒業。同期は会う度に我々の援助のおかげで卒業できたと言われていました。卒業数十年後に広研仲間へお返しのご馳走ができホッとしました。その後には旅行の幹事役等をしながら仲間への感謝！感謝の毎日です。

## 目黒わが町自慢

中央町 金井豊男（昭和41年 理工）

中央町（ちゅうおうちょう）は、目黒区の中央に位置する町で、旧目黒区役所は、中央町にあった。旧区役所の郵便番号は152-0001でまさに目黒区はここから始まっている。

現行行政地名は中央町一丁目および中央町二丁目。目黒区の地理的中央部に、目黒通りと駒沢通りにはさまれた形で位置している。北部は駒沢通りを境に五本木に、南部は目黒通りを境に目黒本町に、東部は中町に、西部は鷹番にそれぞれ接している。また、北西端は、東急東横線が高架で通過している。町域内は主に住宅地として利用される。

1966年（昭和41年）に唐ヶ崎町・鷹番町・中目黒四丁目・上目黒五丁目の各一部から成立した。かつては目黒区役所の所在地であったが、2003年（平成15年）1月に上目黒（東急東横線中目黒駅付近）に移転した。

区立小・中学校の学区は、鷹番小学校（中央町一丁目）、五本木小学校（中央町二丁目）と中央中学校（旧区立第五と第六中学校を統合）である。

主なスポット、施設としては、十日森稲荷神社、区立中央緑地公園、区立中央中学校、区立鷹番小学校、中央町社会教育会館（目黒区役所旧庁舎跡地）、NTT唐ヶ崎ビルなどがある。

十日森稲荷神社は、往昔五本木の旧家島崎佐五右衛門の邸内神であったものを、のちに今のところに移したと伝えられ、旧上目黒五本木組の鎮守である。



雪の十日森稲荷神社

筆者は、区立鷹番小学校、区立第六中学校を卒業、駒沢通りを隔てた十日森神社に面した五本木に住んでいる関係で中央町は、由縁ある町である。

目黒区で事業が行われている補助第26号線（目黒中央町）（目黒郵便局前～五本木間）は、2007年に事業認可され、2026年3月完成する予定。補助第26号線は、中央町を分断して走るので完成後、中央町は大きく変わることが予想される。

## 目黒の坂巡り

大坂 細谷 清（昭和49年 商）

大坂、大橋、新々目黒富士

前回の行人坂に続き、同じ目黒川に下る大きな坂-「大坂」を取り上げます。

目黒区の東側を南北に流れる目黒川によって台が形成されて左岸には急峻な坂が出来て、昔からそこは西に富士を眺められる格好の場所になりました。

江戸末期の浮世絵画家安藤広重は、当時在った「元」と「新」の二つの目黒富士を入れた富士山を描きました。元富士との絵（図1）は「目黒の秋刀魚」を供した茶屋があった茶屋坂から、新富士から（図2）は、大坂からの構図ではないでしょうか。

150年以上も前の江戸の風景絵師とほぼ同じ場所からの写真が図3です。

元富士の場所は共済病院そばの中目黒公園、新富士は旧朝倉家と東京音大の辺りでしょうが、何方も今はその山はなく、前面のビルに遮られて富士を見られません。が、この大坂の坂下のビル9階35mの高さに在る天空庭園からは、この様に観られます。

大坂下は大橋と呼ばれ首都交通の西の要衝です。江戸時代には大山参りや相模川の鮎街道として利用された大坂は、急峻な坂道として旅人を難渋させました。今は玉川通りとしてなだらかに、高速道路では真っ直ぐな道となり、難所ではなくなりましたが、大橋は東京の西側随一の交差点（ジャンクション）となり、目黒川に架かる橋は数メートルの小さな橋ですが、役割は確かに大橋に相応しいです。

地下では首都高速中央環状線が各方面に三段階、更に田園都市線が並行し、地上では一般国道の246号線（玉川通り）、環状6号線（山手通り）が地上と高架を走り、東名高速に直結する首都高速3号線がその上を走る所で、目黒区民のみならず都民も全国の多くの人も車も通り過ぎた事でしょう。

その地下60mの高速道から地上40mの高架高速道を一望出来る公園が、その天空庭園です。此処こそ現代の「新々目黒富士」で、そこに立ち、鷹狩りに来て秋刀魚を食べ富士を見たであろう將軍様を、新鮮な鮎を運んだ人足等の江戸からの移り変わりに想いを寄せ、夕陽が沈む富士を眺めるのも一興です、茶屋でもあったら贅沢過ぎですね。



図1 目黒元富士と富士山



図2 新富士と富士山



図3 天空庭園からの富士山

## 会員ギャラリー

『美しい日本』 F50 油彩  
佐伯文子（昭和51年 文）



日本の美しい四季の花々と富士山と太陽と青い美しい川、そこに日本の美しい平安時代の十二単の姫達と殿方をペアで描きました。檜扇は日の丸にしました。「世界に誇る美しい日本!! がんばれ日本!!」  
明るい美しい日本、描きました。

『西明寺の紅葉』 写真  
小杉 哲（昭和41年 理工）



本会報の旅行部会記事に詳述されているが、目黒稲門会として三年ぶりの旅行で滋賀県湖東三山の一つである西明寺を訪れた。

ここは「絶景紅葉100選」、「日本紅葉の名所100選」等々にも選ばれており、幸い天候にも恵まれ、これぞ紅葉の感があった。山門から本堂に通じる緩やかな石段の道はまさに紅のトンネルである。

## 新入会員



熊田 稔（昭和49年 政経）  
（目黒区中町在住）

初めまして、熊田稔と申します。  
自宅は中町ですが、2021年1月からシンガポールで勤務しています。2年ぶりに帰国した際、自宅に入会勧誘を送付いただき、入会させていただきました。海外在住のため、当面はオンライン参加となりますが、よろしくお願いいたします。

## 校友会年会費納入のお願い

目黒稲門会会員（一般）は、早稲田大学校友会の会員資格を有する方となっていますので、目黒稲門会年会費に加え、校友会年会費の納入もお願いします。校友会費（年間5,000円）は、母校・在学生の支援にも活用されています。詳しくは校友会HP、または、校友会事務局（電話：03-3202-8040）にお問合せください。

皆様のご協力をお願い致します。

## 原稿を募集しています

編集委員会では、皆様の原稿を募集しています。  
海外での貴重な体験、今だから言えるお仕事の秘話、在学中の感動物語、今も続く部活動の仲間との交流等々、奮ってご寄稿をお願いします。

用紙は会報専用のWord版電子原稿用紙(当会HP「会報のページ」よりダウンロード)をご使用の上、編集長宛メールにてお送り下さい。他の原稿用紙をご使用の場合も歓迎致します。編集部までご相談下さい。

皆様の傑作、労作をお待ちしています。

## 正誤表

・会報第97号P8右欄「お悔やみ申し上げます」中  
【正】奥村 忠男  
【誤】奥村 忠夫

## 編集後記

三年間も続いた新型コロナの終焉は近いのでしょうか。2021年はオンラインでの賀詞交換会開催、22年は懇親会なしでのお弁当を持ち帰った新年会でした。三年ぶりの今年はフルセットで元気な皆様と再会できたことを喜び合いました。

この度は猪名川さんから任を引き継ぎました。百号記念を控え、その伝統と使命の重さに身が引き締まります。（細谷 清 記）

